

アラゲヒョウタンボク（スイカズラ科）の北海道分布

千歳市 五十嵐 博

はじめに

アラゲヒョウタンボク（オオバヒョウタンボク）*Lonicera strophiphora* Franch. は、梅沢（2007）では「高さ1 mくらいの落葉小低木で、よく分枝してこんもりした樹形となる。葉はおおむね卵形で長さ10cmほどになり、先はとがって両面に粗い毛がある。花は2個セットでつき、花冠の長さは2cmほど、先が5裂し、萼

すい。このため早春に本種の探索を継続中である。現時点における道内分布を報告する。

文献調査

原（1983、1985）の撮影地は松前町である。滝田（2001）の標本産地は乙部町可笑内川河口付近と詳細である。

梅沢（2007）の撮影地は前記したように



図1 アラゲヒョウタンボク：福島町 2016.04.17

と基部の葉状苞に腺毛がある。果実は広楕円形で赤く熟し、長さ1cmほど。漢字では粗毛瓢箪木と書く。開花時期は4～5月。明るい山地林内に生える。分布は北海道（渡島半島）・本州（北部）。撮影日は4月26日、撮影場所は松前町」となっている。本種の開葉および開花は周囲の植物よりも早く、崖地などで目に付きや

松前町である。梅沢（2018）の撮影地は奥尻島である。

分布調査

2006年から2021年までの16年間で確認できた地点を国土地理院2.5万分の1地形図名で北から列記する。後志太田、久遠、貝取澗、遊楽部岳、熊石、渡島鮎川、

砂蘭部岳、相沼、ササマクリ山、上ノ国、石崎、原口②、江良①、江良②、大千軒岳、松前①、渡島福島①の17箇所で、●印で図2に示した。本会会員の中川博之氏には後志太田（太田山神社）を教わった。本殿に至る急な石段を登らずに神社下で本種を確認できた。また、嶋崎太郎氏からは奥尻島や各地の産地情報を頂けたが一部は未確認である。この情報産地：神威脇、春日、赤石①、赤石②は○印で示した。本種は図示したように日本海側に偏った分布形態である。

2021年度は分布の穴である江差周辺各地を探したが確認できなかった。また、嶋崎氏情報の春日を探したがここも確認できなかった。奥尻島は最近調査に出かけていない。

謝辞

産地情報に関しては、本会会員である酒井信氏、中川博之氏、嶋崎太郎氏に詳しい産地をお教え頂いた。お礼申しあげる。

(北海道野生植物研究所)

引用文献

原 松次. 1983. 北海道植物図鑑中. 噴火湾社, 室蘭.

原 松次. 1985. 北海道植物図鑑下. 噴火湾社, 室蘭.

滝田謙讓. 2001. 北海道植物図譜. 自費出版, 釧路.

梅沢 俊. 2007. 新北海道の花. 北海道大学出版会, 札幌.

梅沢 俊. 2018. 北海道の草花. 北海道新聞社, 札幌..

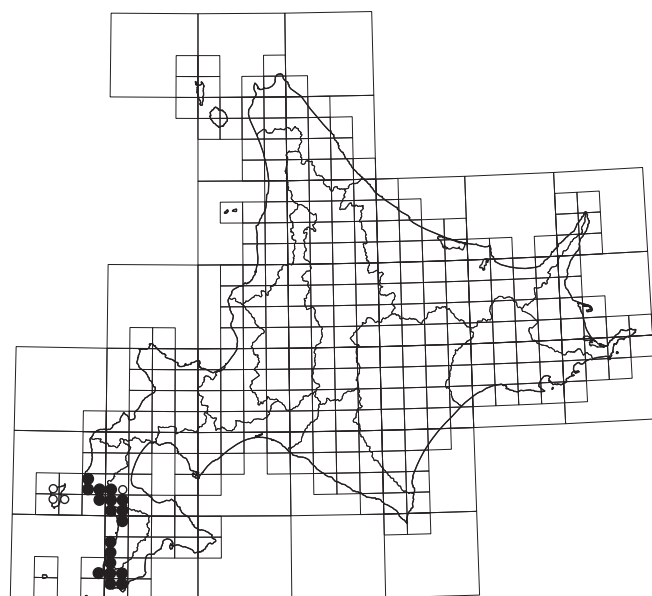


図2 アラゲヒョウタンボクの北海道分布 2021